

別表2（第2条関係）領域・科目毎の研修内容

領域名	認定介護福祉士養成研修導入
科目名	認定介護福祉士概論（認定介護福祉士の役割と実践力）
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修全体の導入として、認定介護福祉士に求められる役割、本研修で獲得すべき知識、実践力と、本研修全体の組み立てについて理解させる。</li> <li>・介護現場の様々な問題がなぜ起きるのかについて、介護観・支援目標の共有化など、チーム運営の視点の重要性を理解するとともに、自立を支援するために根拠に基づいた介護を実践することの必要性を理解させる。</li> <li>・自ら考える力・自ら学ぶ力の重要性を改めて確認させる。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定介護福祉士養成研修の体系を理解し、学習計画を立てる。</li> <li>・認定介護福祉士に求められる役割と実践力について説明できる。</li> <li>・介護現場でおきる問題について、チーム運営の視点で分析する重要性を説明できる。</li> <li>・自立を支援するために根拠に基づいた介護を実践することの必要性を説明できる。</li> <li>・自分自身の価値観が自らのリーダーシップにどのように影響しているかを自覚する。</li> </ul>
時間数	15時間
含むべき内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○認定介護福祉士の社会的使命と介護の専門性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護をめぐる社会的動向（地域包括ケアシステム、地域共生社会、医療・介護連携、生産性向上、介護の質の向上等）と介護福祉士の役割の変化</li> <li>・認定介護福祉士に求められる役割と実践力（根拠ある生活支援、介護職のチーム運営・マネジメント、職種間連携、地域連携）</li> </ul> </li> <li>○介護現場における様々な問題とその要因 <ul style="list-style-type: none"> <li>・職種間または組織間に起こりやすい問題</li> <li>・利用者への関わり方や介護観の相違により起きる問題</li> </ul> </li> <li>○チーム運営と職種間連携、求められるリーダーシップ <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームを構成する職種間連携 各職種の役割・機能の理解</li> <li>・チームケア・チームアプローチとは何か</li> <li>・チームにおける介護観・援助目標の共有化</li> <li>・チーム内・職種間の調整</li> <li>・チームメンバーとのコミュニケーション</li> </ul> </li> </ul>
留意事項等	○講義と演習によって研修を展開する。
課題学習の可否	全部可・一部可・否 課題学習は7時間を超えない配分とする
修了評価の方法	<p>筆記試験、レポート（レポートのみでの評価可）</p> <p>【試験による評価】</p> <p>50問程度。</p> <p>【レポートによる評価】</p> <p>①さまざまなチームを構成し、成果をあげるためにはリーダー自らの価値観が影響する。本科目を終えて、今まで体験した事例を交えて学んだことを1600字程度にまとめる。</p>

	<p>②研修の内容を踏まえ、認定介護福祉士としての自分の役割を十分に考えたうえで、自職場における介護職チームが抱える課題にどのように取り組むか。また地域において認定介護福祉士としてどのような活動を行うべきか、について1600字程度にまとめる。</p>
<p>受講要件</p>	<p>(1) 次のア～ウのいずれをも満たしていること。</p> <p>ア 介護福祉士資格取得後の実務経験5年以上（実務経験の考え方は介護福祉士国家試験の受験資格に準ずる）</p> <p>イ 介護職員を対象とした現任研修の受講歴として、100時間以上の履歴を有していること。</p> <p>ウ 研修実施団体の課すレポート課題又は受講試験において一定水準の成績を修めていること。ただし、機構の定める研修を修了している場合は免除する。</p> <p>(2) 次のエ又はオを満たすことが望ましいこと。</p> <p>エ 介護職の小チーム（ユニット等、5～10名の介護職によるサービス提供チーム）のリーダー（ユニットリーダー、サービス提供責任者等）としての実務経験を有すること。</p> <p>オ 居宅、居住（施設）系サービス双方での生活支援の経験があること。</p>
<p>講師要件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者</li> <li>・修士課程を修了している者が望ましい</li> </ul>